

ぎふ・中国くるぶ特別講演会

2017年度公開例会パート3



〈小坂講師のプロフィール〉

1968年東京都生まれ。立教大学社会学部卒。日比谷松本楼代表取締役社長。中国宋慶齡基金会理事、孫文と梅屋庄吉研究センター（上海）顧問などを務め、曾祖父梅屋庄吉の遺志を継いで日中親善に取り組む。2008年胡錦濤国家主席と福田康夫元総理の夕食会をコーディネート。2010年上海万博日本館での「孫文と梅屋庄吉展」を企画、12年上海市から白玉蘭賞を受章。梅屋のふるさと長崎県から県民特別賞を受賞、曾祖母トクの出身地長崎県壱岐市の観光大使も務める。著書に「革命をプロデュースした日本人」（講談社）など。

孫文と梅屋庄吉 ～Transnational な生き方を学ぶ～

講師 小坂文乃さん（日比谷松本楼社長）

日中国交正常化45年、日中不再戦碑文交換55年を記念し、岐阜県日中友好協会は梅屋庄吉のひ孫の小坂文乃さんを招いて特別講演会を開きます。私財を投げ打って中国革命の父孫文を支援した梅屋の生き方、二人の友情から学ぶことを小坂さんが熱く語ります。

梅屋庄吉とは・・・

1868(明治元)年、長崎生まれ、15歳のとき上海を旅し海外雄飛を志す。1895年(明治28年)、自身が経営する香港の写真館で共通の知人を介し、孫文と運命的な出会いをする。アジアは西欧列強のくびきから解放されるべきだ、と2人は意気投合。梅屋は「君は兵を挙げよ。我は財をもって支援す」と、清王朝を倒し建国を目指す孫文を生涯にわたって支えていく。

辛亥革命では私財を投じ武器、弾薬などを調達する。これらの資金は、梅屋が帰国後、設立した日活の前身「M・パテー」の映画事業で得た多額の収益が基になった。

また梅屋は妻トクと、日本に亡命中の孫文と宋慶齡を梅屋邸に招いて結婚披露宴を開き、親族と同等の証しである義兄弟、義姉妹の杯を交わした。

孫文の死後も、梅屋は孫文の思想と遺志を守り、孫文の銅像4基を中国各地に寄贈すると共に、当時の広田外相と協力して、日中友好のために懸命の努力を重ねた。

日時・会場

10月28日(土)13:30～15:00 (開場 13:00)
朝日大学(瑞穂市穂積 1851)5号館講義室

問い合わせ/申し込み

岐阜県日中友好協会

携帯 090-6582-1768 (田中)

メール mdzg@yahoo.co.jp

FAX 058-240-0621

参加費 無料

講演会終了後、簡単な懇談会を行います。ぜひご参加ください。



主催:岐阜県日本中国友好協会

協賛:朝日大学 (公財)県国際交流センター

